

【テーマ1】 産業と経済が元気を取り戻す加西 ②				
前回いただいた意見等		第4回(4/16)		次回以降
都市計画 - 市街化区域には空き地や農地が多数存在 - 旧市街地を中心に人口の減少や空き家、空き店舗の増加が見られる - 市街化区域内には狭あい道路が多く、避難路や救急車両に十分なスペースを確保できない - 河川水路はコンクリート整備が多く、流速の増加による洪水等が懸念 - 下水道事業は多額債務を抱え、高齢化や経済的理由により水洗化率の伸びは鈍い - 地権者が土地を手放さないなどの理由で、不動産の流動化や住宅建築が進まない - 住宅の耐震化についての問合せも増加しており安全安心に対する市民の関心も高まっている	上下水道 - 下水道事業は多額債務を抱え、高齢化や経済的理由により水洗化率の伸びは鈍い - 都市施設の機能統合など今後の設備更新にはダウンサイジングの考え方も必要 都市公園 - 遊具の補修など良好な環境の維持 - 地域の参画など地域住民に開かれた活用 自然環境 - 夏は暑い 冬は寒い - 自然環境が良い - 環境意識が低い - 自然はあるけど整備されていないもったいない - 川が汚い 水が少ない 公共交通 - 中国自動車道の活用 - 他市町からの通勤や購買活動が車中心 - 利便性が何らかの形で改善すると良い - 勤務先への交通手段をどう考えて行くか - 高齢者のための公共交通整備 - 公共交通網の整備 北条鉄道が終着 - 年老いたときの交通網など対策が必要 - 市民の7割が、公共交通利用が不便な地域に生活している - 公共交通の利用者は非常に少なく、自動車に依存した交通体系 - 家族の送迎に頼る移動制約者も増加 - コミュニティバスの利用者は年々減少 - 赤字負担の維持に留まる(コミュニティバス) - 北条鉄道の車両や設備の安全確保 - 北条鉄道の各駅舎の整備 - 交通の便が悪い - 市外との交通アクセスが少ない(都市部から来れない)	都市計画 - 大型商業施設の進出にともない、市街地への新たな集客の流れが生まれている - 西高室地区では区画整理事業による新たな住宅地整備に向けた動きがある - 市街化調整区域の規制によって、中心市街地はコンパクトなまちを形成している - 旧市街地と新たな商業施設が隣接する都市構造は他市にも類が少ない特徴を持つ - 中心市街地と歴史的まちなみが共存する都市の魅力づくりに期待が寄せられる 景観形成 - 中心市街地では街路樹と電線地中化の効果で加西市らしい良好な都市景観を形成 - 市民主体で緑化や花づくりに取り組み、市の文化として根づかせている地道な活動 - 都市景観やまちづくりへの配慮に対して、住民の意識は高まりつつある 公共交通 - 公共交通協議会が設置 - 公共交通網を総合的に再編整備する体制が構築されています - 高齢者等の潜在的な公共交通機関利用者の掘り起こしが見込まれる - ボランティア駅長をはじめ北条鉄道を地域で支える市民の活動が大きく注目される - 鉄道ブームによる北条鉄道の乗降客増加が期待される - 環境面でもモーダルシフトなど公共交通の利用が見直されている - 地域交通を地域の力で支える新たな運営手法が検討されている 情報通信 - 市域のほぼ全域で光ファイバーが整う→ハード面での整備課題はほぼ解消 - 加西防災ネットなど、緊急情報を一斉配信する体制が整備されている - 市WEBサイトは自主制作による融通の良さがあり、アクセス数は増加してる	都市計画 - 適切な土地利用の規制と誘導 - 市街化区域においては、既成市街地の未利用地活用を促進 - 人口の維持、活力の保持を図りつつ、周辺環境等を考慮した適切な土地利用の誘導が課題 - 都市計画区域外においては緑豊かな自然環境の維持、形成に努める - 交通結束機能の強化や商業集積など、都市の魅力をより一層高めることが求められる - 市街化区域内において、防災機能を高める施策が必要 総合的な住環境整備 - ストック住宅の活用 - 住まいに関する情報ネットワークの構築 - 土地区画整理事業により整備された宅地への住宅立地を促進 - 特色ある学校環境 - 通勤通学の利便性の向上 - 都市の魅力づくり - 安全・安心で暮らしやすい地域づくり - 福祉のまちづくり - 総合的な住環境の質的向上 公共交通 - 利用者の利便性を考え、乗らない人が利用できるコミバスの見直しが求められる - 乗車整備だけでなく利用者の意識に働きかけていく(コミュニティバス) - 北条鉄道は施設の計画的な整備が必要 - 交通結末点に着眼し、地域住民同士や地域住民と観光客をつなぐ北条鉄道の活用 上下水道 - 水道事業は今後の計画的な設備更新が課題 情報通信 - 企業、医療・教育・ボランティア等の現場におけるITの活用、生産性や情報発信力の向上 - 市WEBサイトの充実による情報発信 - 双方向コミュニケーション機能の拡充 - 個々の地域課題の解決に、いかにITを活用するか	景観形成【地域・行政】 - 伝統的民家や景観保護や環境保全について地域全体の取り組みとして進める 情報通信【行政】 - 情報サービスの利便性を高めるには、携帯電話などモバイル機器への対応を進める - 申請のオンライン化 - ITの活用による行政事務の効率化

【テーマ2】子どもが元気に育ちいきいきと活動する加西 ①					
前回いただいた意見等		第4回(4/16)	次回以降		
現 状 ・ 問 題		チャンス（機 会）	取り組むべき具体的な課題	提案【働きかける主体】	
人口減少 - 生活するのに割高というイメージ - 実際、上下水道は高い - 人口減少 子どもが少なくなった - 子どもの数はこのまま減っていく - 少子化対策(兄弟の増) - 安心して子育てができるための支援 生涯学習 - 部署間で重複するような生涯学習の 取り扱う講座やメニューの固定化 - 館外活動においては地元の公会堂の 活用や地域コミュニティとの連携はまだ 不十分 - 生涯学習に参加する市民のニーズが 多様化 - ニーズを市が的確に把握できていない 体育活動 - 市の公共運動施設の利用者は年々減少 - スポーツクラブ21については、市民への 浸透が十分ではない - スポーツの指導者が不足している (役をおしつけられてしている人が、多く なっている) - スポーツ等の指導者不足 文化活動 40数年続く市文化祭等の行事は事業内 容とその運営に目新しさが少なく固定化 - 文化財保護や地域歴史遺産の継承に 関する人材の高齢化 - 歴史遺産に対する関心が低い - 歴史・文化を感じさせるまちなみ保全や 地域づくりの活動は十分活かされてい ない 学校施設 - 学校施設の老朽化 - 学校環境の整備(中学校) - 安全で安心な教育環境の整備 - 学校の耐震化 - 学校環境(新しい教育設備・施設) - 学校の規模は？		就学・就労 - 公共交通が不便 (会社・学校に通えない) - 郷土への愛着が育っているか？ - 地元で働きたい仕事や企業があるのか - 大人になった時に働きたいと思える仕事 があるか？ - 就学、就職する人が加西や家を離れて 戻ってこない - 住むところの問題 - 雇用の受皿が小さくなった - 地元になりたいと思える愛着を抱いている か、理解させているか 子育て・教育(家庭) - 家庭の教育力低下 - 親の教育力の低下(自分も含めて) - 親の世代の成長 - 家庭内で両親とも疲れていないか？ - 親の世代の成長 - 親に教育できる力がないまま親になっ ている30代～40代、親世代の成長できる 機会を - 両方の親が働くことが多くなると親と 子との接する機会が減っている - 親が教育熱心 - 子育てや教育に不安を感じる保護者も 増えている - 子供を育てられない親 学校任せ - 挨拶をしない校区の子ども - 親が子育てに不安を持っている - 産む前の不安と産んでからの不安 - 子供と親の絆が薄くなる - 子育てに対して相談する場所がない - 家に祖父母がいないと 安心して働けない - 親になる、家族をもつとは？ - 親への教育、親自体の教育 - 経済的に困窮する家庭、要保護、準要 保護家庭の増加 - 塾や習い事で夜遅くまで外出している子 どもが増えている	生涯学習 - 時間にゆとりのある高齢者の増加は 様々な生涯学習参加の増に期待 - 市の歴史・文化の情報発信は、市史や 歴史講座を通して提供されている - 地域には祭りや各種団体活動、近所づ きあいなど、何らかの形で関わる機会が ある - 市民の関心度の高く、新しいニーズにあ った講座が実施されたことが評価される - 歴史ガイドボランティアについては人気 が高く、ガイド機会も増加 - 全国的にはまちづくり協議会や歴史文化 遺産を核とした地域おこしが行なわれて いる 体育活動 - 社会体育団体が担い手となって大会 運営に主体的に参画関与していくスタ イルが進む - 市民の健康志向の高まりから運動や スポーツへの関心が広がる - 市内には、登りやすい低い山が多くあり 整備すればハイキングコースとして活用 できる 教育 - 幼保での環境体験学習、自然学校など 様々な感情体験を重ねることができる 環境	生涯学習 - 地域のボランティアを育成する - コーディネーターが必要 - その役割を担うところをつくる - 在住外国人への相談窓口がない - 市民活動リーダーの養成 - リーダーの掘り起こし - 生涯学習を支えていくための行政として できる支援を充実 - 生涯学習の取り扱う多様な学習機会の提供 - IT、国際化に対応した学習支援 - 社会参加活動、情報交換の活発化が図れる 地域づくりに向けて取り組む - スポーツクラブ21など地域スポーツのあり方 について、関係団体とともに協議を進める - 様々なレクリエーションスポーツとの連携 - 歴史・文化の継承のため、退職者等の活力 を活かす 教育 - 子どもたちに質の高い教育を実施 - 特色のある(学校独自の)教育 - 児童・生徒・保護者へ情報提供を行い、 意見の反映や理解の促進に努める - 学校教育活動、教育委員会活動に関する 情報発信、情報公開 学校施設 - 学校環境の整備(中学校) - 安全で安心な教育環境の整備 - 教育施設の老朽化が進み、保育や教育 環境の耐震化が急がれる - 児童数、生徒数の減少による学校施設の 適正規模と適正配置 - 学校の統廃合問題について、市の方向性 を示す市民への説明 - 給食センターや単独調理場の各施設・設備 の老朽化や建替え 学校給食 - 全中学校給食の実施 - 食育を通じた郷土愛の醸成と安全安心な 学校給食に取組 子育て・教育（家庭） 子育て中のお母さんが ひとりぼっちにならないように	生涯学習【地域・行政】 生涯教育のリーダーの養成

【テーマ2】子どもが元気に育ちいきいきと活動する加西 ②

前回いただいた意見等		第4回(4/16)	次回以降	
現 状 ・ 問 題		チャン ス（機 会）	取 り 組 む べ き 具 体 的 な 課 題	提 案 【働 き か け る 主 体】
特別支援教育 ・子どもの数は減っているが、特別支援学級、発達障害児童は増加傾向 ・特別支援教育対象児の増加 青少年活動 ・ジュニアリーダーが、いかに地域ボランティアとして活躍できるか、社会貢献できるか ・子どもの自然体験、生活体験等の不足 ・外での遊びを教えてくれる指導者が必要 子どもの遊び ・ある意味、子どもは充実しすぎ ・しょーもないことを親はさせない ・与えられたもので遊ぶ ・子どもの集団遊び(社会性発達) 不足 ・集団遊びが減っている なかでも、外遊びが減っている ・外で遊ぶことの安全性の問題 ・兄弟が多く異年齢で遊ぶ機会の減少 ・自然体験、生活体験が少なくなっている ・遊びの指導者が必要 ・遊びが学力につながっていた ・今の子どもは忙しい ・土日は野球、平日は塾 ・親が教育熱心すぎるため、子どもが元気に遊ぶことができない ・子どもの安全重視か、それとも体力、社会性を育てるのか 教育・子育て（学校） ・教育による加西の特色、魅力づくり ・地域に魅力を持てる教育 ・土曜日 半日学校 ・集団(むれ)遊び 伝承し創造 ・冬は半ズボン ・学力のUP ・学校の教育	地域と学校との連携 ・地域と子どもの交流の増 ・学校の開放・地域との連携 ・学校社会は閉そく的 ・先生も地域にねぎすこと ・元気に育つには近所のおじさん、お婆さんとの交流が少ない ・学校と地域というよりは(先生と地域) ・子どもたちの見守りに地域の力が必要とされている まちづくり（少子化対策） ・子どもの数がこのまま減っていく ・1人の子供の家庭が多くなるだろう ・嫁が発言権 ・親の収入で子供の先が決まる ・言える関係 言えない関係 信頼関係 ・加西に住みたい ・若者が住み続けられる町づくり ・子どもが元気に育ち活き活きと活動する加西の実現 ・魅力を持てるまちづくり ・加西力のUP ・市民主体のまちづくり運動 ・努力が報われる社会づくり？ ・国の施策と市の施策が合うかどうか ・結婚 ・現在の子どもの日のあり方 子育て（地域） ・地域との疎遠 ・町内の子供が少なくなり 子ども会の維持が難しくなる ・みんなで子育て ・隣に誰が住んでいるかわからない状態 ・地域の伝統や行事を重んじる気持ち ・産めるフィールド ・育む(育める)フィールド ・子どもを産める環境 ・完璧な子供もいないし 完璧な親もない ・青少年の健全育成 ・子どもたちの安全性の向上 ・コミュニケーションのフィールド(場所)とネットワーク ・あぜ道で遊ぶ	特別支援教育 ・学びのサポーター、スクールアシスタント等の配置による特別支援教育の充実 地域と学校との連携 ・子どもの見守り活動を通じた高齢者の活躍 ・登下校の安全確保や緊急情報を配信する防犯メール ・ワッシュョイスクールなどの地域ボランティア活動 ・地域住民による見守り隊が結成され、登下校時の見守り活動が行われている	特別支援教育 ・特別支援児の受け入れ体制を整備 地域と学校との連携 ・学校の開放・地域との連携 ・先生は子どものことはわかるが、地元とかかわることが必要 ・家庭の教育力、地域の子育て力の向上 まちづくり（少子化対策） ・結婚する人を増やすこと ・子育て世代が加西に住んでもらえるような市の魅力づくり ・若者が住み続けられる町づくり ・若い人が移り住むための住環境 ・子どもたちが まちに魅力を持ってくれるまちづくり ・就学、通学が便利になる交通環境 ・市民主体のまちづくり運動 ・出会いづくり ・加西から有名人を 幼児教育 ・幼児教育においては公私・幼保・幼保小の連携を推進 青少年センター ・青少年センターの活動の充実と活性化 ・センターの相談事業、活動を広く多くの市民に周知すること 情報発信 ・情報技術を活用した迅速な情報交換、情報共有による犯罪や不良行為の未然防止 青少年活動 ・野外教育活動指導やエコ活動啓発を契機とした青少年活動 ・ジュニアリーダー養成 (小学生には自分で考えて行動できる態度を養い、中学生にはジュニアリーダーとして養成、高・大学生には、ジュニアで培った経験を地域のボランティア活動に活かすよう指導) 人権啓発 ・高齢者、女性、子ども、外国人などの様々な人権問題への対処	まちづくり【地域・行政】 ・加西子どもの日をつくる 子育て（地域）【地域】 ・地域全体で子育てをしよう ・地域の人達が 子供たちを見守る 関わりを持つ

【テーマ3】誰もがみんな元気で健康に暮らせる加西 ①				
前回いただいた意見等		第4回(4/16)	次回以降	
現 状 ・ 問 題		チャン ス（機 会）	取り組むべき具体的な課題	提案【働きかける主体】
食習慣 ・3食きちんと食べるなど 基本的な生活習慣がすたれている ・食習慣・生活習慣 ・良い食品の提供・生産 ・誤った理解による食生活や運動により効果が得られていない場合が見受けられる ・便利な生活による身体活動の低下や食習慣の変化 ・食の知識がない ・体に良い物 食べる飲食店がない ・糖尿病の人が多い 甘いもの食べすぎ ・もっと野菜を食べなさい!! ・一人暮らしや老夫婦世帯の食		健康意識 ・市民の健康づくりや生活習慣病予防に対する関心、意識が高まっている ・団塊の世代は健康づくりに前向きである	健康づくり ・健康に対する意識づけ (健康問題への脱メタボ啓発)	医療【行政】 高齢者の肺炎球菌の予防接種の助成 小児ワクチン助成金 ・ヒグワクチン ・サーバーリックス ・肺炎球菌 小児医療の助成
健康意識 ・健康意識が低い ・若い人に世話になりたくない と考える高齢者もいる ・高齢化の進行 ・生活習慣病有病者数が増加 ・医療や健康づくりに対するニーズは高い反面、介護予防事業等の参加者が少ない ・高齢者ドライバーは、運転に不安があっても乗らざるを得ない状況である		医療 ・市内には開業医が多く、身近な場所で行きつけ医を持つことができる ・市立加西病院では地域のかかりつけ医と密接に病診連携に努めている ・市立加西病院は多くの研修医の支持を集めている ・ホスピタルフェアは病院と市民との交流を図る上での有益な催しとなっている ・市域で起こり得る大規模地震に備えた緊急時の体制が構築されつつある	食関係 ・健康食の開発、紹介活動！	
医療 ・加西病院の医師がすぐ変わる。 ・小児科の数が少ない(医師) ・勤務医不足、救急医療 医師不足 ・病院経営の基盤強化 ・地域間での医療・福祉の密度の違い ・医療費の増加 ・勤務医不足とともに、救急医療の要求、あるいは安易な受診の増加 ・医師の負担が増加し、重症患者の治療にも支障をきたしている ・小児医療・産婦人科等については医師の数が少ない ・病院には高齢者の方がとても多い ・セルフメディケーションがなってない(とてあえすお医者さん) ・小4以上が病院にかかりにくい(乳児医療は小3まで)		介護 ・介護サービスを使いながら、自宅で生活したいと考える高齢者の割合は半数以上を占める ・地域福祉活動事業のいきいき委員会組織率は8割以上となっている ・あったか推進の集いがほとんどの地域で行なわれている ・地域においてもボランティア活動や介護予防リーダー養成講座への参加について関心が高い ・認知症についてはキャラバンメイトの活動が活発化、メンバーも増えている ・高齢者虐待防止ネットワーク委員会、介護予防生活支援会議との連携が進む ・高齢者虐待に関する通報、相談対応は頻繁に実施されている ・小規模多機能型居宅介護施設が中学校校区に1つずつ整備される ・民間の社会福祉法人では高齢者向けの輸送サービスを始めています	医療 ・市民が正しい医療のあり方を理解し、地域あげて医療資源を保護する取組み ・小児医療の充実 ・医師確保のための専門医療体制と高度の専門医療機器の整備 ・病院・診療所間のネットワーク化 ・病院経営の基盤強化 ・介護⇄医療 連携 相互理解 ・病院の存続(QQ(救急)医療)	
若者の定住 ・結婚率が低い ・若い人の働く場所がない ・加西市に大学がない ・若い世帯が少ない(住みにくい) ・学生が集まりやすい店がない ・長時間、預ってもらえる託児所がない ・病児保育してもらえる施設がない ・安心して子育てできる環境が整っていない ・児童手当が少ない		地域福祉 ・障がい者相談窓口「やすらぎ」が、庁舎内に移転、複合的な相談・支援体制が充実する		

健康意識

・市民の健康づくりや生活習慣病予防に対する関心、意識が高まっている

・団塊の世代は健康づくりに前向きである

医療

・市内には開業医が多く、身近な場所で見かけやすいことができる

・市立加西病院では地域のかかりつけ医と密接に病診連携に努めている

・市立加西病院は多くの研修医の支持を集めている

・ホスピタルフェアは病院と市民との交流を図る上での有益な催しとなっている

・市域で起こり得る大規模地震に備えた緊急時の体制が構築されつつある

介護

・介護サービスを使いながら、自宅で生活したいと考える高齢者の割合は半数以上を占める

・地域福祉活動事業のいきいき委員会組織率は8割以上となっている

・あったか推進の集いがほとんどの地域で行なわれている

・地域においてもボランティア活動や介護予防リーダー養成講座への参加について関心が高い

・認知症についてはキャラバンメイトの活動が活発化、メンバーも増えている

・高齢者虐待防止ネットワーク委員会、介護予防生活支援会議との連携が進む

・高齢者虐待に関する通報、相談対応は頻繁に実施されている

・小規模多機能型居宅介護施設が中学校区に1つずつ整備される

・民間の社会福祉法人では高齢者向けの輸送サービスを始めています

地域福祉

・障がい者相談窓口「やすらぎ」が、庁舎内に移転、複合的な相談・支援体制が充実する

健康づくり

・健康に対する意識づけ
(健康問題への脱メタボ啓発)

食関係

・**健康食の開発、紹介活動！**

医療

・市民が正しい医療のあり方を理解し、地域あげて医療資源を保護する取り組み

・小児医療の充実

・医師確保のための専門医療体制と高度の専門医療機器の整備

・病院・診療所間のネットワーク化

・病院経営の基盤強化

・**介護⇄医療 連携 相互理解**

・**病院の存続(QQ(救急)医療)**

介護

・小規模多機能型居宅介護施設の整備

・地域包括支援センターの認知度はまだ低くセンターと介護者との関わり方が検討

・認知度が低いサービスについては高齢者にわかりやすい窓口機能の充実を図る

・高齢者虐待についての周知

・権利擁護が必要なケースでの成年後見の相談

・地域包括センターと関係機関の連携強化

医療【行政】

・**高齢者の肺炎球菌の予防接種の助成**

・**小児ワクチン助成金**

・**・ヒゲワクチン ・サーバーリックス**

・**・肺炎球菌**

・**小児医療の助成**

【テーマ3】誰もがみんな元気で健康に暮らせる加西 ②					
前回いただいた意見等		第4回(4/16)	次回以降		
現 状 ・ 問 題		チャン ス（機 会）	取り組むべき具体的な課題	提案【働きかける主体】	
バリアフリー - 散歩する人は多いが、ウォーキングコースや歩道、防犯灯の整備が足りない - 外に出かけても、トイレがバリアフリーになっていなかったりして、出なくなる高齢者もいる - 施設のバリアフリー化 - 快適な住環境整備 - 福祉のまちづくり条例やバリアフリー新法等の法令遵守意識がまだまだ低い - 車イスで入れるお店が少ない - 長期間経った道路、施設が多くバリアフリーが進んでいない 保育所 - 少子化傾向の中でも、女性の社会進出等により、保育所入所園児数は増加 - 保育サービスの需要の拡大 - 幼稚園・保育所の老朽化が進み、決して良好な環境で保育が行われていない 体力づくりの場 - 子どもの遊び場が少ない 10年前、自然のなかで田畑で、駆け回っていたが、年齢に応じた遊びを十分できてない - 福祉センターが活用されていない - 気軽に健康づくり(運動)できる施設又はスペースが少ない - 市民が使えるプールがない(健康増進施設) - 若い人の運動意識が低い 生きがいきづくり・人材活用 - 定年後の仕事や趣味の場所が少ない 防災 - 市民や企業の防災意識が低い - 防災意識を醸成するためのPRや情報提供が不十分 - 老朽化した公共施設の耐震化や避難場所となる学校施設の整備が進んでいない 農地問題 - 荒地が多い(活用していない田畑) - 高齢化で自ら田んぼができなくなり人をお願いする - 農家の後継ぎがいない - ほったらかしの農地が多い		子育て支援 - 若年層や未婚者の母子家庭が増加 - 母子家庭や高齢者等でパソコンが使えない人に必要な情報が届かない - 母子家庭では自動車を持っていない母親が多く、就労につながらない - 景気の低迷による子育て世代の雇用の不安定化 - 保護者に精神的ゆとりがないため行き過ぎたしつけや虐待が生じる可能性もある - 高齢者世帯や、子ども等のいわゆる災害弱者が増加している - 災害弱者における避難方法等の対策について課題を抱えている 公共交通 - 交通の不備のためライフラインに影響してくる - 公共交通機関が少なく、高齢者が医療機関での受診が受けにくい - 公共交通機関の整備 - 高齢者の交通の足が少ない - 高齢者ドライバーは、運転に不安があっても乗らざるを得ない状況である - 高齢者の事故が増加 地域コミュニティ - とより近所の関係が希薄になっている - ご近所の助け合いが少なくなった - 核家族・女性が社会に進出することにより、子育て力の低下 - 保育サービスの充実が求められる - 近所付き合いの希薄化 - 世代間交流が希薄になった - 市役所と地域の健康づくりネットワークがまだ不十分 - 漠然とした将来への不安 - 子育てに関する相談できる場の充実 - 子連れで安心して出かけられる場 - 個人あるいは家庭が健全な生活を送るため、地域の関わり結びつきが必要 - 若者が高齢者を助ける仕組みづくり - 地域行事、老人会の行事にかたより - 市民や企業の防災意識が低い - 町内行事に若者が参加してこない - 障害者で孤立している人が多い - 子どもの数が少なくて町内の活気が少ない	子育て支援 - 要保護児童対策協議会等の団体と事業連携が図れている - 子どもの見守り活動など地域や校区の活動で高齢者と子どもとの交流機会が増えている 地域コミュニティ - 老人クラブの加入率が県下1位、大きな人的基盤を持つ組織として期待される バリアフリー - 公共施設、商業施設ではバリアフリー化やサインが整備され、ユニバーサルデザインの考え方が進む	生きがいきづくり・人材活用 - 高齢者の生きがいきづくりとなる交流機会の創出 - 若者が高齢者を助ける仕組みづくり - かしの木学園への参加で外に出る習慣づくり - 定年後の社会参加推進 - 地域貢献システム作り - 高齢者になっても地域貢献できる場を 子育て支援 - 安心できる遊び場の確保 - 子供たちにもっと自然体験を 保育所 - 保育園を気軽に相談できる場所として活用する方策が必要 - 保育料の負担軽減 バリアフリー - 高齢者の電動カート、自転車利用に対する道路や交通安全施設の整備 地場産業 - 地産品や特産物をもっと活かす - 農産物 →もっと地域ブランド力を高める 「加西土産」をつくる！ 若者の定住 - 企業誘致 - 大学や企業の誘致 - 給料UP 景気回復 農地問題 - 山林を再生(土地作りが全ての基盤)	体力作りの場【行政】 - 室内アスレチック施設の建設 - 運動を続けられる環境作り(ポイント制etc)

【テーマ4】地球に優しい環境社会をつくる加西				
前回いただいた意見等		第4回(4/16)	次回以降	
現 状 ・ 問 題		チャン ス（機 会）	取り組むべき具体的な課題	提案【働きかける主体】
環境教育 教育(設備の)環境が悪い 山への子供達の理解(参加が少ない) 孫や子の代に 今より良い環境を受け継げるか 田畑 ・ダムで水を止めることの弊害 ・農薬 ・農地の荒廃 ・局地的集中豪雨等の自然災害による農林業被害や人的被害の可能性 ・危険ため池改修の予算確保ができず未整備 ・農業の担い手不足と放棄田の増加 ・里山や田畑が放棄 ・鉄道沿線に菜の花を栽培しているが沿線全域に広がらない ・休耕田が多い ・荒れている印象がある ・放棄田が多い 里山 林が少なくなった 山がヤせてきているので、水田もミネラルが不足 山の保水力、ミネラルが低下 里山や遊歩道が 市民に知られていない 鹿が普通に家の周りにいる →食糧不足か？米や野菜を毎日食べにくる 半餌付け状態 山林が荒れている スギやヒノキの植林が 手入れされず放置 里山が荒れている 竹林整備ができていない 放置林で新芽が育たない ふよう土(フカフカ)30cm以上 高齢化 ・商店街がシャッター通りとなっている ・町内に小中学生がいない ・いずれは空地ばかりになる ・村の中でも山を知りつくしている人 →65歳ぐらいギリギリか ・町内の老人が多すぎて 公の行事(祭り等)に参加できない	自然・資源の活用 ・緑地の確保が不十分 ・環境に配慮した資材利用が不十分 ・景観に配慮した指導が不十分 ・自然を活用した公園が少ない ・豊かな自然を活用できていない ・玉丘公園、古法華公園に子供や家族連れの姿が少ない ・飛行場の有効活用ができていない リサイクル・ゴミ・公害 ・空き地や山地での不法投棄やポイ捨てが依然多発 ・最終処分場の限界 ・野焼き ・公害に対する市民からの苦情増加 ・バイオ植物の作付け等が進まない ・ゴミ集積所が遠い ・空き缶のポイ捨て 生態系 ・外来種による在来生態系への影響 アライグマ、ヌートリア、ジャンボタニシ、ブラックバス、ブルーギルなど ・生態系の崩れ ・松食い虫などによる松林の減少 河川 山の放置林→川下の問題 海の微生物の低下 農業 河川管理ができていない 市内(近所) 田を流れる川が汚い 三面張りの河！生態系が変わる 交通 ・家庭人数分の車両保有 ・車の交通量が多くなった ・自転車等の整備が現状とズレている(ムダ使い！) ・どこへでも車でいく社会(車が便利すぎる) 水道 ・小中のプール 効率が悪い ・水の使い方悪い →再利用や循環社会を！ 太陽光発電（ソーラー） ・ソーラーを利用した照明等がない ・太陽光発電の普及が進まない ・公共施設への太陽光発電などの環境対策がない	自然・資源の活用 ・森林、農地の多面的な活用可能性 →環境共生社会の実現 ・空家バンクや市民農園の開設支援 自然との共生 ・里地里山一帯が多様な生態系の宝庫 交通 ・電気自動車の普及 ・北条鉄道での100%BDFを使った走行実験 環境教育 ・夕焼けや星空が美しい 新エネルギー・省エネルギー ・加西ハイツの各家屋が建替え時期 ・植物からエタノール精製 ・資源循環型社会に向けた市民意識の高まり ・廃食油のBDF精製事業を市民、事業者、行政が一体となって展開 ・循環型社会形成のための市民意識醸成に向けた啓発、支援 ・三洋電機リチウムイオン電池工場が新たな環境施策の進展に繋がる 里山 ・昔は畑町、若井町は松茸産地 →復活すれば全国ニュースになる 河川 ・万願寺川の笹倉～玉野の桜が美しい 高齢化 ・近所の高齢者が元気	自然・資源の活用 ・農業の担い手づくり(新規就農、集団営農の育成、企業誘致) ・都市と地方の循環(相互依存) ・ため池の再活用方法 ・鎌倉山、善防山、小谷の城山をもっと利用する対策 自然との共生 ・開発行為にかかる法整備 住民合意形成による事前手続、環境景観保全 交通 ・公共交通機関の維持、充実拡大 ・ガソリン(環境)税の導入 ・水素自動車の導入 ・歩くこと、自転車の推進 ・車の利用を減らす リサイクル・ゴミ処分 ・ゴミの燃料化、更なる減量化 ・リサイクルの推進 BDF利用促進 ・天ぶら油の回収意識を高める ・ゴミ処理施設の延命化、効率適正化 ・ゴミ処理の広域処理の検討 ・廃棄物発生源の抑制 ・3R(reduce・reuse・recycle) 新エネルギー・省エネルギー ・脱化石燃料 ・ソーラー住宅の推進 ・間伐材の有効利用 ・スマートグリッド ・エネルギー自給力のある地域づくり ・未活用資源(バイオマス、太陽光等)による地域エネルギー導入 ・持続可能な低炭素社会の構築 ・未活用公有財産の新エネルギー施策への転用、活用 上下水道 ・上水道の水源確保 ・下水道の完全接続 ・下水道事業の広域化 環境教育 ・環境教育、環境体験の推進 ・環境イノベーション企業の誘致 →環境教育充実の契機 ・環境教育や環境学習を通した実践活動の拡大 ・子どもに環境教育(小・中・高) ・子供たちが自然、植物、昆虫、野鳥に触れる機会や行事を多くしてほしい	環境教育【行政】 ・子供たちが自然、植物、昆虫、野鳥に触れる機会や行事を多くしてほしい 河川【地域】 ・もっと川沿いに桜の植栽を ・町の川は町できれいに！ ・下里川沿いにウォーキングしているが川が汚れている →地元で清掃を リサイクル【行政】 ・天ぶら油の回収場所の工夫 ガソリンスタンドにするとか ・分解性のゴミ袋を 新エネルギー・省エネルギー 【行政】 ・メガソーラー ・LED防犯灯の導入 【市民】 ・メガソーラー ・市民発電所 【地域】 ・市民発電所 ・LED防犯灯の導入 交通 【行政】 ・北条鉄道の電化 ・北条鉄道電動車両の導入 ・コミュニティバスの再編、デマンドバスの導入 【地域】 ・デマンドバスの導入

【テーマ5】市民参画・男女参画で地域を元気にする加西 ①

前回いただいた意見等		第4回(4/16)		次回以降	
現 状 ・ 問 題		チャン ス （ 機 会 ）	取り組むべき具体的な課題	提案【働きかける主体】	
そもそも ・参画しても見返り(結果報告)がない →満足感がない ・保守的 伝統的 ・市の行事に市長のコメントがない ・住民の意識構造の調査データはあるのか ・加西市は広い どんなグループがどこで何をしているかわかりにくい ・行政議会の業務の80%は未来を考えるもの(→何故今さら未来を考える) ・文句は言うけど、それを徳にもっていけないのか ・いっぱい団体がつながれば、大きな力になるのでは ・いろんな生活の人がいる →各々に“とりこぼし”がない取り組み方が大事	地域力 ・保守的 ・受身的風土 ・地域ベクトルの不確定 ・地域の目的がない ・役員が定期的に交替 ・地域参画意識の低下 ・同じことの繰り返し ・やる気の低下 ・地域より個人重視 ・市役所による過大な課題の提示 ・市全体で同じサービスを提供しようとしても地域性が出ない ・人口の流出と構造変化 ・特色ある地域サービスの提供 ・地域事業のマンネリ化 ・地域間競争 ・優先順位の取捨選択 ・地域力の弱体化 ・公の解釈の変更	地域力 ・魅力ある地域づくりを進める市民団体による精力的な活動	地域力 ・NPOに対する理解や関心を深めるには地域コミュニティとの関係、価値付けもあわせて考える ・地域の統合(例)小学校区→中学校区 ・家庭や地域、職場等のあらゆる場における意識づくり ・子育て世代や若年者の流出を抑制 ・新たな子育てファミリー層が住み暮らしたいと思える魅力づくり ・地域活動等に積極的に参画できる環境づくり ・農産物の地域内経済循環を高める また次世代にその意義を高める ・若者が働ける場を多くする ・人・物・金が流動的に 加西市でまわるように刺激を与える ・サイクリング道路の整備 道路網 ・大手企業の誘致	地域力【行政・地域】 ・予算の地域配分 ・やる気のある地域に重点予算	
	全体課題 ・行政のニーズの多様化 ・公における市役所(官)の業務領域の曖昧さ ・少子高齢化による税收減と社会保障給付の負担増加 ・中長期の財政状況は厳しい ・新しい公共の確立 ・自分の集落をどのようにしていくか 集落地区ベースの意見集約 ・参画と参加の違いを理解することがポイント ・根拠ある情報をもとに計画する ・ITに力を入れていく ・NPO育成 ・地方自治へのシステム作り	人材育成 ・地域におけるコミュニティの担い手や後継者の不足 ・地域に眠る人材の発掘	交流施設 ・地域交流センターで市民窓口、NPO設立時における行政支援窓口を設けている ・図書館は市民の情報文化発信基地として、まちの賑わいづくりの一翼を担う	企業連携 ・高齢者の雇用も視野に入れ、雇用の場を創出、民間企業との連携を強化	文化振興【行政】 ・公民館活動にも補助金を
	解決法 ・産学連携の構築 ・市民から行政参加を ・住民と行政側の意見交換を毎週行う ・第三の公共 ・民間技術の導入(PPP) ・何でも住民投票しよう ・地域の問題点、課題を整理し、議論を始める ・まずは校区単位でもまとまりのある社会を ・安心安全のまちづくりネットワークを構築(特に災害時の対応) ・子供会議や女性会議の開催 →将来のための仕事をする市役所作り	財政 ・予算の地域差 ・新たな財源の捻出	教育 ・加西の子どもはみんな米作りの機会が持てる(苗～収穫まで出来る)	観光 ・空き家有効利用 ・加西の今あるものを活かす	男女共同【行政】 ・女性管理職の多い企業に助成金を
	少子化・高齢化 ・高齢者のみ世帯では相談する人がいないため、振り込め詐欺等の被害にあう可能性がある ・人口動態の推移をどのように見るか ・少子高齢化の地域に与える影響は ・若返りが必要 ・企業がないので、子どもたちが市から出て行くしかない ・農業対策		少子化対策 ・若い世代が住みたいと思う街作り ・若者が集まる場所を作る ・子育て中のパパママ 情報広場		
	インフラ ・小児科医が少ない ・交通が不便(自家用車が無いと移動ができない) ・最低限のライフラインの保障 ・北条鉄道の設立時の意味を考える(拠点性、観光ループ化、スローペース生活、地域力の向上等)		人材育成 ・中核人材の発掘 ・リーダーの掘り起こし ・地域づくりの担い手づくり ・国際感覚豊かな人材を育成		
			行財政改革 ・先進地の模倣 ・市役所の組織改正 ・各施設の連携と共通のプラットフォームの構築 ・目標管理に基づく評価システム ・公会計の確立、外部委託の推進 ・施設のダウンサイジング ・政策の選択と集中を仕分ける ・行財政改革 ・市民への説明、議論を深め、効率的で質の高いサービス編成を構築する ・市民の期待に合う市へと取り組む		

【テーマ5】市民参画・男女参画で地域を元気にする加西 ②

前回いただいた意見等		第4回(4/16)	次回以降
現 状 ・ 問 題		チャン ス （ 機 会 ）	取り組むべき具体的な課題
男女共同 ・育児や介護などの事情で未就労だが、いずれは再就職したいと考える女性の割合は高い ・女性区長が少ない ・自治会等の主要役員に女性がいない ・学校やP.T.A.主要役員に女性がつかない ・学校教育で“男女共同参画”の考えはあまり入っていない ・通学用ヘルメットの男女色分けは必要ないのでは？（他市では分けていない）	生涯学習 ・地域交流センターや健康福祉会館等の多様な学習機会を提供できる施設がある 多文化共生 ・市人口の2%が在住外国人となっており、交流や共生を図る機会が多くなっている ・市内団体やボランティア団体による市民レベルでの国際交流体制の整備を進めている 安全安心のまちづくり ・消防団と自主防災組織との合同訓練により、防災意識の醸成を図っている ・ハザードマップ、「かさい防災ネット」の一斉配信等、情報提供 ・地震発生時には、流通関連企業との間に物資供給体制に関する協定が結ばれている ・警察や交通安全協会等と連携して交通安全や防犯啓発に注意喚起を行う	生涯学習 ・時代の流れに沿った様々な学習機会の提供→活動人口の増加 ・IT、国際化に対応した学習支援 男女共同 ・女性のポスト確保、工夫 ・男女共同参画社会づくりの推進 ・家庭と職業と地域のバランスが取れたライフスタイル ・若年層の参画など男女共同参画の推進によるさまざまな人材の参画 ・家庭や地域、職場等あらゆる場における意識づくり ・女性の視点をまちづくりに入れる ・町毎の女性グループ育成 ・立案企画決定の場に女性の目を入れる ・意識改革 ・農家の女性参加 多文化共生 ・外国人との共生を掲げる多文化共生の視点 ・在住外国人が暮らしやすい社会の構築を目指す ・多文化共生社会基本指針の策定 ・国際感覚豊かな人材を育成 ・ホームページ等で在住外国人のための多言語による生活情報配信サービス ・多文化共生社会の実現 ・外国人の若い能力ある労働力を加西市に入れる ・在住外国人との共生 ・姉妹都市を増やす(アジアで) 教育 ・教育力を高める ・学校生活の基本技術がしっかり学べる教育(料理、経営、掃除など) ・子供は地域で育てていく ・福崎町の「山田文庫」のようなものが各校区にあれば ・意識改革 文化振興 ・芸術文化にふれるチャンスを作り独自性を育成する	